



大田区立馬込第二小学校

学校だより

令和六年度 十一月号

家庭数配布

好奇心

校長 山崎 宏則

「私には特殊な才能はありません。ただ、熱狂的な好奇心があるだけです。」

これは、アルベルト・アインシュタインの言葉です。こどもの「なぜ?」「どうして?」は二歳頃から始まり、六歳頃までの期間がいわゆる「なぜなぜ期」と呼ばれています。この時期はこどもの好奇心が旺盛な時期で、身近な人や物事、事象について質問を繰り返します。保護者の方々にも、あまりにも質問が多く、回答に困ったという記憶がある方もいらっしゃると思います。このよう

な好奇心は、こどもの想像力や創造性を大きく高めることが分かっています。また、好奇心は、学力に對し、知能、勤勉さに続く三番目の力をもっていると言われ、近年、会社や企業においては、好奇心旺盛な人材を企業の成長と変革をもたらすキーパーソンとしてとらえ、組織人事に多大なる影響を及ぼす要素であるとも言われています。

小学生の時期、「なぜなぜ期」は過ぎ去ったにしても、学校の授業においても、知的・好奇心は、知識・技能の習得やものの見方・考え方を働かせた学習、主体的な学習の推進に大きく関わり、確実にこどもの学びを高めます。アインシュタインの言葉が誰にでも当てはまるわけではないでしょうが、好奇心は新たな知識や経験を探求する原動力として、こどもたちの確かな学びに大きな役割を果たしていると言えます。非認知能力とも知られる好奇心をどのように伸ばしていくか、生かしていくかという心理学分野での介入研究はまだこれからです。

しかし、授業の中でこどもの好奇心を高め生かす学習はすでに実践的に展開されています。例えば、理科の学習において実験の結果を予想する場面や、こどもたちはこれまでの生活経験や既習学習から考えを働かせます。予想がクラスで二分されれば、その根拠をそれぞれが力説しますし、「よし、それなら実験で試してみよう」と主体的かつ協働的に学習が進んでいきます。しかし、自然科学とは興味深いもので、大方が予想する実験結果を覆す事象がいくつも見られます。驚きと喜びのあいまった中で、自分たちで行った実験結果をもとに、こどもたちは考察を始めます。「なぜ、予想と異なったのか」「予想は合っていたがその根拠は合っていたのか」と個々に思考を巡らせます。そして、学級全体で考察を議論する中で、「条件を変えよう」というのか、「他の物質ではどうなのか」と今度は新たな疑問が浮かび上がります。さらなる課題解決に向けて次の学習問題が与えられた問題よりも興味・関心が高い分、学習意欲を掻き立て、主体的な学習をさらに進める大きな原動力となります。このような学習のスパイラルこそが、好奇心自体を高め、好奇心を効果的に学習展開に生かし、なおかつ、知識・理解の着実な習得に影響を与える要因になっていると考えます。

では、家庭ではどのように好奇心を育てられるのでしょうか。小学校の「学習指導要領」には、「好奇心」という文言は、一か所しか記載されていないのですが、幼稚園の「教育要領」には複数登場するので、それらをもとに考えると、三つ程度挙げられます。

一つめは、様々な環境や事象について見たり触れたり体験させたりすること、二つめは、それらの体験を家族も共有・共感すること、三つめは、感じたこと思ったこと、疑問に思ったことを言語化させることです。好奇心には二種類あり、「幅広い内容について多様な情報探索をする好奇心」と「ごく限られた内容について特定の情報探索をする好奇心」です。いろいろな体験を幅広くさせてあげたい場合と、すでに夢中になっていることがありそれに特化した体験をさせたい場合と両方あると思います。いずれにしても共に体験し、こどもの興味・関心に合わせて共感し、「どう思ったか」「どう感じたか」「疑問に思ったことはないか」と問いかけてみることを繰り返すことが大切です。

想像力や創造性を大きく成長させる好奇心。こどもの成長に必要なものは「好奇心」と「思いやり」の二つだけだと述べる学者もいるくらいです。こどもの旺盛な好奇心を、学校でも家庭でも大切にしていきたいものです。

道徳授業地区公開講座について

道徳担当

「相手のことを考えていない行動だから。」これは、道徳の学習、「決めつけてないかな」で決めることはどうしてよくないのかを考えたときの「こどもたちの声」です。

道徳の時間は、

- (1) 道徳的価値を理解する。
- (2) 自己を見つめる。
- (3) 物事を多面的・多角的に考える。
- (4) 自己の生き方についての考えを深める。

この四つの視点から道徳性を養うことをねらいとする「心の教育」の時間です。そのねらいを十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いに終始することのないように留意する必要があります。道徳性を養うために私たち教師は、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高められるように、日々指導を工夫し模索しているところです。

十月に行われた「道徳授業地区公開講座」では、各クラス「生命尊重」をテーマにした教材で道徳の授業を行いました。

また、昨年度同様、公認心理士の発田憲先生による講演会を行いました。今年度の内容は『こどもの「ことば」を聴く力』です。大人の知りたいことを「訊く」のではなく、こどもが知ってほしいと願っていることを「聴く」ことの大切さについて教えていただきました。「聴く」ことの第一歩はこどもの言いたいことに心の目を向けることです。こどもは自分なりの言葉で表現しようと努力しているため、焦らずに最後まで待つことが重要です。そうすることで、こどもの思考力も育まれていきます。

学校でも児童との関わりの中で大切にしていきたいことです。講演会には、多くの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。



教育目標(◎今年度の重点目標)

◎心豊かで思いやりのある子 ○よく考えてくふうする子 ○健康でたくましい子

五年生の様子

五年担任

高学年の仲間入りをして半年が過ぎました。四月初、まだ幼さの残っていた児童も遠足や運動会「馬二ソラン 2024 ~ Do our best! ~」、社会科見学など大きな行事の経験を重ねることで、集団としての規律や友達と協力することの大切さや友達を思いやることなどを学校生活の中で学んできました。

鎌倉遠足では、北鎌倉駅の浄智寺から高德院までハイキングをしました。約一時間半、次第に険しくなる山道に苦労しながらも、前向きに声を掛け合いながら楽しく歩きました。

運動会では、二つのソーラン節を披露しました。授業のただけではなく、休み時間や放課後に練習を積み重ね、本番では緊張している様子でしたが、力強く踊ることができました。

社会科見学では、味の素川崎工場で製品の生産工程を見学しました。グループごとに声を掛け合って工場内を見学し、懸命にメモをとる姿が印象的でした。

十一月には、伊豆高原移動教室と学芸会が実施される予定です。毎日の学校生活や校外学習で身に付けた集団としての力を発揮してほしいと思っています。そして来年度、馬込第二小学校のリーダーとして活躍できるよう、今後も成長を温かく見守っていきます。



11月の予定

日	曜日	算数補習教室↓	
1	金		
2	土	東京都教育の日	
3	日	文化の日	
4	月	振替休日	
5	火	避難訓練（起震車・煙体験） 校内研究（4-3は5時間授業 他4時間授業）	
6	水	生活科見学（1,2）	
7	木	特別時程 就学時健診 午前授業（最終下校13時）	
8	金	移動教室前健診（5）	
9	土		
10	日	安全指導	
11	月	全校朝会 クラブ活動 学芸会特別時程開始 伊豆高原移動教室（5）	
12	火	PTA 給食試食会	6
13	水	小中一貫教育の会	
14	木		3, 4
15	金		
16	土		
17	日		
18	月	全校朝会 クラブ活動	
19	火		5, 6
20	水	特別時程 午前授業	
21	木		3, 4
22	金		
23	土	勤労感謝の日	
24	日		
25	月	学年朝会 委員会	
26	火		
27	水	校外学習（3）	
28	木	学芸会リハーサル	
29	金	学芸会（児童鑑賞日）	
30	土	学芸会（保護者鑑賞日）※給食あり 1-4年5時間授業、5・6年6時間授業	

☆12月2日（月）は、学芸会の振替休業日となります。



5年生の様子

11月の生活目標

みんなで使うものを大切にしよう

スクールカウンセラー来校日

お気軽にご相談ください。

担任、養護教諭、または、スクールカウンセラー専用携帯電話へ相談予約をお願いします。

K・Y(木)	S・T(金)	相談時間
	1日	9:00 ~ 16:00
7日	7日(木)	9:00 ~ 16:00
14日	15日	9:00 ~ 16:00
21日	22日	9:00 ~ 16:00
28日	29日	9:00 ~ 16:00
1回30分間		初回50分間

080-5977-6167
(相談日にお願いします)